

副副腎に発生した副腎骨髓脂肪腫の 1 例

足利赤十字病院泌尿器科（部長：高橋溥朋）

一ノ瀬義雄，黒川 公平，高橋 溥朋

足利赤十字病院放射線部（部長：奥野哲治）

水 橋 義 和

足利赤十字病院病理部（部長：小島 勝）

小 島 勝

群馬大学医学部泌尿器科学教室（主任：山中英寿教授）

山 中 英 寿

A CASE OF MYEOLIPOMA ARISING FROM ACCESSORY ADRENAL GLAND

Yoshio Ichinose, Kouhei Kurokawa, and Hirotomo Takahashi

From the Department of Urology, Ashikaga Red Cross Hospital

Yoshikazu Mizuhashi

From the Department of Radiology, Ashikaga Red Cross Hospital

Masaru Kojima

From the Department of Pathology, Ashikaga Red Cross Hospital

Hidetoshi Yamanaka

From the Department of Urology, Gunma University School of Medicine

A case of adrenal myelolipoma is reported. The patient was a 74-year-old female who was admitted to our hospital. Ultrasonography and CT scan incidentally showed a left retroperitoneal tumor, located between the left kidney and the spleen. At the operation, we observed that the tumor separated from the normal left adrenal gland, and confirmed that the tumor had developed from the accessory adrenal gland.

The resected tumor measured 61×42×40 mm in size and 60 g in weight. Histological findings were compatible with myelolipoma.

We reviewed 104 cases of adrenal myelolipoma reported in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 39: 37-40, 1993)

Key words: Accessory adrenal gland, Myelolipoma

緒 言 症 例

副腎骨髓脂肪腫は，比較的稀な疾患であるが近年画像診断の進歩に伴い偶然発見される症例や術前診断可能であった症例の報告が増加している。今回われわれは，多房性腎嚢胞を伴い，副副腎に発生したため術前診断が困難であった骨髓脂肪腫の 1 例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

患者：74歳，女性
主訴：尿潜血反応陽性
家族歴：特記すべきことなし
既往歴：高血圧，白内障
現病歴：1991年7月白内障の手術時に尿潜血反応陽性指摘され当科紹介となった。超音波検査，腹部 CT にて左腎腫瘍を疑われ同年7月26日精査，加療のため

入院となった。

入院時現症：身長 134 cm, 体重 42.5 kg, 血圧 160/76 mmHg, 胸部理学的所見に異常なし。腹部に腫瘤を触知せず。

入院時検査成績：RBC 331万, Hb 9.6 g/dl, Ht 29.0%と貧血を認める以外は一般血液生化学検査は正常であった。

画像診断：胸部レ線像, KUB, IVP に異常を認めず。

腹部超音波検査：脾臓と左腎の間に輪郭明瞭で内部は不均一な hyperechoic mass を認めた。左腎上極の嚢胞と癒着しているように見えた (Fig. 1)。

腹部 CT 検査：超音波にて認める脂肪成分を含む内部不均一の腫瘤が脾臓と左腎の間に存在した (Fig.

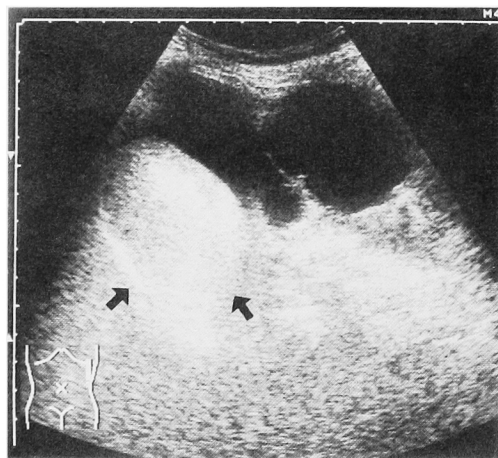


Fig. 1. Ultrasonography reveals echogenic heterogeneous mass with adjacent cysts in the left kidney.

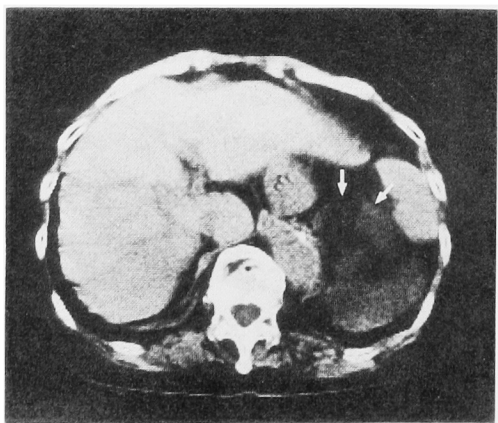


Fig. 2. CT scan shows a tumor between the left kidney and the spleen.

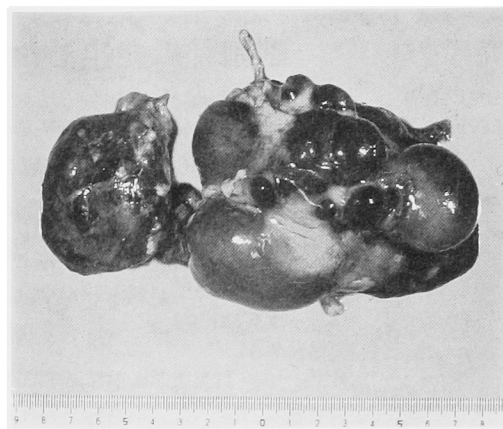


Fig. 3. Gross specimen of the encapsulated tumor 61 x 42 x 40 mm in diameter and 60 g in weight.

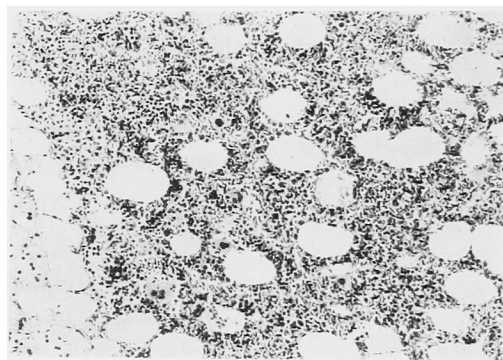


Fig. 4. Micrograph shows myeloid elements surrounding mature adipocytes.

2).

以上の所見から、腎被膜由来の脂肪成分を含む腫瘍で、奇形腫または脂肪肉腫を考えた。

手術所見：全身麻酔下に経腹的腫瘍摘出腎合併切除術を施行した。術中、正常副腎および左腎臓とは腫瘍は隔絶されていたが術前悪性を否定しきれなかったため腎合併切除を行った。

摘出標本：標本は大きさ 61 x 42 x 40 mm, 質量 60 g, 表面平滑で被膜に覆われた赤褐色の腫瘍であった (Fig. 3)。

病理組織学的所見：副腎組織内に成熟脂肪組織が存在し、その一部に骨髄造血組織を認めた (Fig. 4)。

術後経過：術後不明熱続き、肺結核疑いにて気管洗浄施行したところ、抗酸菌陽性にて現在抗結核化学療法中である。また血圧については、術後特に変化を認めなかった。

Table 1. Distribution of age and sex

年 齢	男性	女性	計
0~19	0	0	0
20~29	3	0	3
30~39	6	5	11
40~49	15	10	25
50~59	21	18	39
60~69	6	13	19
70~	2	5	7
計	53	51	104

考 察

副腎の骨髓脂肪腫は、比較的稀な非機能性腫瘍である。本邦における副腎骨髓脂肪腫については、三宅ら¹⁾が外科的に切除した43例を集計している。三宅ら以降自験例を含めわれわれが検索しえた本邦外科的切除例61例を加えた計104例について検討した。

男女別では、男性53例、女性51例でありほぼ同数である (Table 1)。年齢は20歳から76歳 (平均53歳) で近年、高齢者の症例が増加している。患側は右72例、左25例、両側5例、副副腎からの発生2例と右側に多い傾向がある。主訴としては、腫瘤触知、腰痛、腹痛等が見られることもあるが、ほとんどトックや他疾患精査中などの偶然発見例である。質量は2.4~1,950 g (平均 333 g) であり、近年偶然発見例の増加にともない摘出質量は小さくなる傾向がある。

このように副腎骨髓脂肪腫の報告数は近年非常に増加しており、最近4年間に66例と現在までの本邦報告例の半数以上がなされていることから従来考えられていたほど稀な腫瘍ではないようである。

本症の成因は不明であるが、現在では副腎皮質細胞の化生によるとの説²⁻⁴⁾が有力である。

自験例では術前画像上、副副腎由来の骨髓脂肪腫を疑える所見はえられず、結果的に術中所見および病理所見にて副副腎由来の骨髓脂肪腫と診断した。副副腎より発生した症例は検索しえたかぎりにおいて5例⁴⁻⁸⁾ありその特徴として正常副腎から発生した骨髓脂肪腫と比較し腫瘍質量重量が大きい傾向があるとされている。ここで注意すべきは、影山らの報告のように術前のCTにて患側の正常副腎が確認された場合でも副副腎からの発症もありえるということを常に考慮しなくてはならない。

診断には超音波検査およびCTが有用とされている。また最近では、MRIにより診断された報告例⁹⁻¹¹⁾もある。

超音波検査の特徴は、suprarenal hyperechoic mass であり、腫瘍が大きく腫瘍の間に切れ込みを有することで鑑別可能であると報告されている¹²⁾が、自験例では患側腎に多発性の腎嚢胞を合併しており特に腎上極の大きな嚢胞によって腫瘍は上方に圧排されておりどの臓器に発生したかの術前の判断を困難にした。

CTでは1)被膜を有し、2)脂肪組織の部分を示す低吸収域と、造血組織、出血巣、石灰巣などによる高吸収域の混在は骨髓脂肪腫を強く示唆し、さらに3)腫瘍内の隔壁構築の有無に着目し、隔壁を有する場合は骨髓脂肪腫の診断をより強く指示できるとの報告^{13,14)}もみられる。

また最近本症例のMRIでの所見が報告されるようになり、今後診断に当たり腫瘍の存在部位や、肝、腎との位置関係や、腫瘍臓器の同定に有用であると思われる。

このように画像診断の進歩にともない術前に骨髓脂肪腫との診断が可能であった症例の報告が急増しているが、本邦ではそのほとんどが診断を兼ねて外科的摘出を受けているのが現状である^{15,16)}。

しかし本邦でも最近では超音波、CTガイドでのfine-needle aspiration biopsyを施行し確定診断をえて外科的処置を回避した症例の報告¹⁷⁻¹⁹⁾が増加してきている。

われわれは諸家の報告^{20,21)}を基に以下の点を満たすものを骨髓脂肪腫の手術適応があると考えている。1)症状がある。2)腫瘍の最大径が6 cm以上である。3)画像診断のみでは悪性を否定不可能である。4) fine-needle aspiration biopsyが施行不可能であるか、それでは確定診断がえられない。

一方、1)高齢者である。2)偶発腫瘍である。3)腫瘍の最大径が6 cm未満である。4) fine-needle aspiration biopsyを施行し確定診断をえるか、3, 6, 12ヵ月後のCTにて変化を認めない場合はむしろ積極的に経過観察でとどめるべきであると考えらる。

結 語

多発性腎嚢胞を合併し、副副腎に発生したと思われる骨髓脂肪腫の1例を報告するとともに、本邦報告104例を集計し若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は第4回日本泌尿器科学会栃木地方会にて発表した。

文 献

- 1) 三宅 修, 細見昌弘, 松宮清美, ほか: 副腎骨髓脂肪腫の1例. 泌尿紀要 **35**: 1373-1377, 1989
- 2) Seyle H and Stone H: Hormonally induced transformation of adrenal into myeloid tissue. *Am J Pathol* **26**: 211-233, 1950
- 3) Olsson CA, Krane RJ, Klugo RC, et al.: Adrenal myelolipoma. *Surgery* **73**: 665-670, 1973
- 4) Damjanov I, Katz SM, Catalona E, et al.: Myelolipoma in a heterotopic adrenal gland. Light and electron microscopic findings. *Cancer* **44**: 1350-1356, 1979
- 5) Stein SH, Latour F and Frost SS: Myelolipoma arising from ectopic adrenal cortex: Case report and review of the literature. *Am J Gastroenterol* **81**: 999-1001, 1986
- 6) Murayama H, Kikuchi M and Imai T: Myelolipoma in adenoma of accessory adrenal gland. *Pathol Res Pract* **64**: 207-213, 1979
- 7) Kageyama T, Doke Y, Takahashi M, et al.: Computed tomography of myelolipoma in the accessory adrenal gland. *Urol Radiol* **11**: 153-155, 1989
- 8) 野々山益男, 堂満計哉, 宮崎正治, ほか: クッシング病にて副腎全摘後, 長期経過して発生した副腎皮質過形成を伴う myelolipoma の1例. 内分泌外科 **7**: 131-134, 1990
- 9) Moriyama N, Kawabe K, Fukutani T, et al.: The appearance of adrenal myelolipoma as seen on nuclear magnetic resonance imaging. *Br J Urol* **162**: 384-385, 1988
- 10) 笹部恒敏, 横田 隆, 西植 隆, ほか: 腹部 CT にて偶然発見された副腎骨髓脂肪腫の1切除例. 日臨外医会誌 **50**: 1429-1433, 1989
- 11) 土田 明, 有山 襄, 須山正文, ほか: 副腎骨髓脂肪腫の1例. 腹部画像診断 **10**: 554-559, 1990
- 12) 道免和文, 鍵山 裕, 高木宏治, ほか: 超音波検査が有用であった副腎骨髓脂肪腫の1切除例. *Jpn J Med Ultrasound* **15**: 83-88, 1988
- 13) 高津 出, 吉住 豊, 島 伸吾, ほか: CT により術前診断しえた副腎骨髓脂肪腫の1例. 臨外 **44**: 1691-1694, 1988
- 14) 田村信一, 滝沢謙治, 鈴木 真, ほか: 両側副腎に発生した myelolipoma の1例. 臨放線 **34**: 1517-1520, 1989
- 15) 福井淳一, 亀井 修, 岩田英信, ほか: 副腎骨髓脂肪腫の1例. 西日泌尿 **53**: 226-228, 1991
- 16) 小口健一, 長谷行洋, 篠田育男, ほか: 副腎骨髓脂肪腫の1例. 泌尿紀要 **37**: 55-58, 1991
- 17) 望月得郎, 中村健治, 高田恵二, ほか: 両側性の副腎 myelolipoma の1例. 臨放線 **35**: 995-998, 1990
- 18) 陳 桂徳, 内山典明, 島田受理夫, ほか: 副腎骨髓脂肪腫の1例. 臨画像 **7**: 112-116, 1991
- 19) 伊藤公一, 藤本武利, 原田晴彦, ほか: 副腎 Myelolipoma の3例. 日超音波医会 51回講論集 **14**: 945, 1987
- 20) Mitnick JS, Bosniak MA, Megibow AJ, et al.: Non-functioning adrenal adenomas discovered incidentally on computed tomography. *Radiology* **148**: 495-499, 1983
- 21) Copeland PM: The incidentally discovered adrenal mass. *Ann Surg* **199**: 116, 1984

(Received on July 6, 1992)
(Accepted on September 19, 1992)